

令和元年度 学校評価書(共通) 前期

校名 宇和島市立明倫小学校

1 自己評価書

教育目標	自ら考え進んで実践する心豊かな子どもの育成
基本方針	「明倫教育」の歴史と伝統を継承し、生涯を通じて学び続けることのできる力強く心豊かに生きる児童を育成し、みんなから愛される明倫小学校を目指す。
本年度重点目標	1 特色ある学校づくりの推進 2 確かな学力を育てる教育の推進 3 豊かな心を育てる教育の推進 4 一人一人を生かす生徒指導の徹底 5 特別支援教育の充実 6 健康・安全教育の推進

評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価	
確かな学力の定着と向上	①	市学力調査、全国学力調査及び県学力調査等の活用	自校のねらいに沿って、各調査を分析し、成果と課題を把握し、具体的な対策を講じた。	・分析資料の作成	A	B
			・具体的な対策の実施	B		
	②	授業改善	ねらいを明確にした分かる授業を行うとともに、学びの成果を実感させる振り返りを行った。	・教師アンケート	D	C
			・児童生徒アンケート	B		
			話し合い活動を取り入れ、児童生徒が主体的に考える授業を行った。	・教師アンケート	C	
	③	家庭学習の充実	ICTを活用したり、学習活動と関連した掲示を行ったりするなど、学習意欲を高める工夫を行った。	・児童生徒アンケート	C	C
			・教師アンケート	C		
			・児童生徒アンケート	B		
	④	ふるさと学習	家庭学習のねらいと効果について、児童生徒と保護者に明確に示し、繰り返し啓発を行った。	・教師アンケート	C	B
			・保護者アンケート	B		
			・児童生徒アンケート	B		
	④	ふるさと学習	家庭学習の在り方を見直し、個の課題に配慮した宿題の改善に努めた。	・具体的な改善策()	C	C
			・教師アンケート	C		
			・児童生徒アンケート	B		
	④	ふるさと学習	「総合的な学習の時間」等で、フィールドワークなどの調べ学習を行った。地域人材を活用したりするなど、地域との連携を図り、愛郷心の醸成を図った。	・教師アンケート	B	B
			・保護者アンケート	B		
・児童生徒アンケート			B			
<p>(成果と課題)</p> <p>○ 標準学力テスト及び全国学力・学習状況調査の本校の結果の分析を行い、児童の苦手な領域や問題形式について理解し、授業の中で重点的に指導したり授業改善を行ったりするよう共通理解を図った。</p> <p>○ 各学級にある提示用PCに算数、理科、社会等のデジタル教科書のインストールを行い授業で活用できるようにした。その結果活用する教員が増え、分かりやすい授業への改善が図られた。</p> <p>○ 算数科における少人数指導の成果が昨年に続き現れている。より個に応じたきめ細かい指導に努めたい。</p> <p>○ 授業の中で話し合いや発表の場を多く持つように努め、少しずつではあるが伝える力が付いてきている。</p> <p>● 授業の進行に手いっぱいでは振り返りの時間の確保が十分にできなかった。特に小グループでの話し合い活動や発表形式の場合に時間が足りなくなる場合が多かった。</p> <p>● 地域人材を外部講師として招き、学習する機会を持つことはできた。理解をより深めることはできたが、愛郷心の熟成にまでつながっていない。</p> <p>(改善策等)</p> <p>○ 家庭学習習慣の定着は向上してきている。引き続き児童及び家庭への啓発を行う。</p> <p>○ 児童の能力に合わせて弾力的な課題の内容や量にできるように宿題の出し方に留意する。</p> <p>○ 授業の進行と振り返りの時間のどちらも確保するために、記入方法の簡略化や次時までの記入にするなどの工夫を行う。</p> <p>○ 低学年から地域の歴史や文化に触れる体験的学習を行うことで、愛郷心の育成を図る。</p>						

評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価	
生徒指導の充実	①	規範意識の向上	規範意識を高めるための共通理解、共通実践に努め、児童生徒の行動規範が高まってきた。	・教師アンケート	C	B
			・保護者アンケート	A		
			・児童生徒アンケート	B		
	②	児童生徒の健全育成	日常的に、児童生徒との豊かな人間関係づくりや仲間づくりに努め、心の通う対人交流が深まってきた。	・あゆみ(日記)点検等	B	B
			・教師アンケート	B		
			・児童生徒アンケート	B		
			不登校の防止に向けて、校内体制の整備と早期対応に努め、チームとして取り組んだ。	・教師アンケート	B	
	③	基本的な生活習慣の徹底	学校いじめ防止基本方針に基づいて、いじめの防止等のために、取組の改善を図った。	・児童生徒アンケート	B	B
			・教師アンケート	B		
			・保護者アンケート	B		
	④	自己肯定感等	「おはよう」、「さようなら」、「ありがとう」、「ごめんなさい」等の挨拶や返事がさわやかにできる。	・教師アンケート	C	B
			・児童生徒アンケート	B		
			・保護者アンケート	B		
	④	自己肯定感等	自己肯定感を涵養する取組の工夫・改善を具体的にを行った(自分にはいいところがある)。	・児童生徒アンケート	B	B
			・児童生徒の姿	B		
			自己有用感(人の役に立っている)や達成感を醸成する取組により、子どもの意識に変化が見られた。	・児童生徒アンケート	B	
④	自己肯定感等	自己有用感(人の役に立っている)や達成感を醸成する取組により、子どもの意識に変化が見られた。	・児童生徒アンケート	B	B	
		・児童生徒の姿	B			
		・児童生徒の姿	B			
<p>(成果と課題)</p> <p>○ 気になる児童の情報交換を定期的に行い、教職員間での共通理解と全校体制で取り組むこと、担任が抱え込まないことを意識することができた。</p> <p>○ 生徒指導主事や管理職への報告、連絡、相談を常に意識し早期対応に努めた。</p> <p>○ 南予子ども・女性支援センターや市役所の福祉課、警察の生活安全課等の関係諸機関と情報を共有し連携に努めた。</p> <p>● 学校が楽しくないや否定的に答えている児童の割合が昨年末より微増している。それらの児童の、達成感や自己有用感、友達との関わりなどを少しでも改善できるよう学級の雰囲気づくりや教育相談の強化等に取り組むたい。</p> <p>(改善策等)</p> <p>○ 登校時の挨拶が自分から大きな声でできるように、挨拶運動などで意識付けを引き続き行う。</p> <p>○ 子どもの活躍できる場の設定や、得意なことを褒めることにより自己有用感や達成感を味あわせるようにする。</p> <p>○ 育成会、民生児童委員等の協力の下、地域全体で子どもたちを見守り育てていくという意識づくりに努める。</p> <p>○ 子どもたちの変化に早期に気が付けるように情報収集を怠らないよう努める。</p>						

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満

評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価	
業務改善	①	ワーク・ライフ・バランス	「出勤・退庁調査」を記入することで、自分自身の勤務時間を把握し、仕事の効率を上げることが意識するとともに、長時間勤務 という働き方の見直しに努めている。	・教師アンケート ・「出勤・退庁調査」の分析と活用	A B	B
	②	働きやすい環境づくり	お互いが働きやすい環境づくりに努め、机上の整理、書類やファイルの管理等を適切に行った。	・教師アンケート	B	B
			休業日の設定を含めた計画的な課外活動や部活動等の適切な運営がなされている。	・教師アンケート	B	B
③	他の教職員のサポート体制の充実	管理職や学年主任、教科主任、生徒指導主事等に対し、必要に応じて報告、連絡、相談を確実にを行い、問題を一人で抱え込まず組織で対応している。	・教師アンケート	B	B	
<p>(成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 毎週水曜日は、放課後の課外活動を行わないようにすることで、研修や事務処理の時間確保ができた。 ○ 校務支援ソフトも2年目となり、より効率よく利用できるようになってきた。 ○ 一人一人が退勤時刻を意識するようになり、繁忙期でなければ、およそ20:00までには退勤するようになってきた。 ● 土日に学校へ来て仕事をしている者も多い。先を見通した業務の順番や軽重、テレワークシステムを効率よく使うなどして土日に学校に来なくてよいようにしていきたい。 <p>(改善策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 退勤時刻を意識できるよう、帰りやすい雰囲気づくりに努める。 ○ スクラップ&ビルドに努め、簡素化できるもの等、業務内容の精選をより一層進める。 ○ 全職員がテレワークシステムの適切な活用に取り組むとともに持ち帰り仕事の増加にならないように努める。 ○ 1人で業務を抱え込まないよう、周囲に相談や手助けを頼みやすいような職員室の雰囲気づくりに努める。 						
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価	
実効性を 目指した 防災教育	①	避難訓練の改善	ありきたりの避難訓練から脱却し、学校や児童生徒の実情に合った条件下で、「実効性」を高める避難訓練を行っている。	・教師アンケート ・児童生徒アンケート ・避難訓練実施案	A B A	A
	②	防災マニュアルの検証と修正	地域の実情、児童生徒の実態に合わせて、防災マニュアルを整備・改良し、関係者(学校・家庭・地域)で共有化を図っている。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・防災マニュアルの改良	C B B	B
	③	地域・保護者との連携	防災について、地域・保護者への啓発、連携の工夫を具体的にしている。	・教師アンケート ・保護者アンケート (・地域アンケート)	B B	B
<p>(成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 天候急変による下校時刻の繰り上げや不審者情報の連絡等にマチコミメールが大変役立った。 ○ 地震・津波への対応だけでなく、風水害への対応について見直した。 ○ 昨年度は実施できなかったが、今年度、予告なし避難訓練(地震)を実施する予定である。 ● 川崎市で発生した登校時の通り魔事件を受け、登校時の見守り活動の強化について検討したが、現状維持が精いっぱいである。 ● 不審者対応の避難訓練では、想定どおりにはいかないとの前提で、臨機応変に対応できるように考えておく必要がある。 <p>(改善策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 登下校時の見守り活動は、地域の協力を得ながら行っているが現状維持が精いっぱいである。児童には、危険を感じたら近づかない、速やかにその場を離れることを徹底していく。 ○ 予告なし避難訓練を含め、様々な想定での避難訓練を計画し実践する。 ○ 病気、けが、熱中症、食物アレルギー、火災、地震、津波等、身近で起こり得る事案に対して対処法を確実に知っておく。 						

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満